

## 万博剰余金の市民活動助成基金づくりに関する市民活動団体の意見交換会次第

とき 2006年8月31日(木) 18:30~21:00

会場 あいちNPO交流プラザ

### 一、会の趣旨

#### 1. 会の趣旨・目的

市民活動支援基金「地元検討委員会」発足に対応して、関係市民団体で経過を共有し、今後の推移に対応していくため。(メンバー等のひろがりともとまり作り)

#### 2. よびかけの対象

愛・地球博に参画した市民セクター。主に地球市民村、市民プロジェクト参加団体。

#### 3. よびかけの主体

博覧会協会及び地元4団体(愛知県、名古屋市、中部経済連合会、名古屋商工会議所)へ「愛・地球博剰余金を市民活動支援に活用して欲しい」との要望書に記名した10団体。事務局窓口((特) ボランティアネイバーズ: 大西光夫)

### 二、経過

#### 1. 一般的経過

① 愛・地球博の閉会(2005年9月25日)

##### I. 愛・地球博の成功評価と剰余金問題

② 理念継承検討委員会の設置と答申(2005年秋。~2006年6月13日答申)

③ 市民セクターからの要望(2006年4月)

④ 地元4団体による「検討委員会」の発足(2006年8月17日)

#### 2. 市民サイドの取り組み経過

① ボランティアセンター、EXPOエコマネー等について継承検討の動き

② 剰余金が明確化するなかで、市民活動団体有志の意見交換(2005年冬~)

③ 地元4団体及び万博協会への要望(書)提出 (2006年4月)

\* 付属資料「万博メモリアル基金構想案」

④ 「市民活動団体意見交換会」 (2006年8月31日)

### 三、万博協会「理念継承検討委員会答申」の内容再確認(議論の前提事項)

1. 総額約130億円の剰余金

2. 国分と地元分で折半して活用

3. いずれにも「市民活動促進に活用する」と提言

- ① 地元分は、10.5 億円と明記。詳細は、地元関係者の検討委員会を設置し検討。
- ② 国分は、使用目的は書かれているが、額は不明。(財)地球産業文化研究所に承継。(博覧会協会は、2006 年末で解散)

四、今後の動き

1. 地元検討委員会 (2006 年 8 月 17 日発足)

- ① 年内に 4 回開催し、結論を出す。  
(※背景：万博協会は年末までに解散し、1 月以降は清算法人に継承、3 月までには一切を終了し、残余財産を 4 月から(財)地球産業文化研究所に承継。)
- ② 委員会構成は、愛知県 (平野洋産業労働部長)、名古屋市 (羽根田英樹総務局理事)、中部経済連合会 (土屋良文常務理事)、名古屋商工会議所 (加藤直嗣常務理事)、昇秀樹名城大学教授、千頭聡日本福祉大学教授、新海英行愛知学院大学教授。委員長は昇教授。
- ③ 検討委員会の論点
  - I. 基金運営手法
  - II. 支援対象事業
  - III. 支援対象者
  - IV. 支援対象エリア
  - V. 審査基準
- ④ 今後の会議予定
  - I. 第 1 回：8 月 17 日 (終了)
  - II. 第 2 回：9 月 20 日                   \*市民活動団体 4 名からヒアリング。
  - III. 第 3 回：10 月中旬
  - IV. 第 4 回：11 月中旬 (最終回)

2. 国分へのアプローチ、連動性

五、市民活動団体サイドの体制

1. 長期戦略課題：「拡大する」こと、「まとめる」こと。
2. 短期的には：第 2 回検討委員会への対応。
3. これらのために、情報の共有、意見交換、コミュニケーションの充実
4. 連絡体制の確認

以上

